



仇訖七部集

阿羅野

五

14
3157
23(5)



元禄二年詠主
芭蕉 抛書
乃ららるる色もよほぬれぬの野守
とてあはれ

元禄二年詠主

芭蕉 抛書

北荒野集目錄

卷之一

花人郭公 月 雪

卷之二

歳旦 初春 仲春 暮春

卷之三

初夏 仲夏 暮夏

卷之四

初秋 仲秋 暮秋



あし

二

卷之五

初冬 仲冬 歳暮

卷之六

雜

卷之七

名所 旅 述懷 恣 異常

卷之八

釋教 神祇 祝

貞外 目錄

曠野集卷之一

花三十句

花乃後より鬼瓦

花乃後より鬼瓦 交五

花乃後より鬼瓦 交五

花乃後より鬼瓦 交五

花乃後より鬼瓦 交五

花乃後より鬼瓦 交五





山里より谷の志ぬら花見の那
 尚自
 何より花見も人乃長刀
 去來
 みどり乃雲すじのきもたはし
 野水
 もあはれあの下戸引て来りいなや
 龜洞
 下、花下とらあといも神ん花の取
 越人
 え風乃山帯おくらふの枝とほし
 一井
 又あきくあもたにぬぬ花の滝
 俊似
 兄弟のいろはあきくもむのそと
 嵐弾

ちりもあさほぬす人
 舟泉
 次けは教了ものや花乃取
 胡及
 えつ花は誰く傘あいなす
 長虹
 栄舟乃花取のきり乃雨
 下枝
 あさくたよちるくゆもりの枝
 鷗歩
 連つや長きさたし
 荷兮
 脆度乃取あさくゆもりの枝
 傘下
 あさくたや風車賣り花乃とさ
 薄芝

花よさうはさくくはな

山あひ乃さぬ花夕月の見出し心苗

花あひる也夜宿さるるの雲越人

なぐあひやまつての花あひ野水

獨来て交還ひかり花結也冬松

花多ゆこりの花月あはる冬文

青もの花子もの花蛇也荷兮

花のの花も人乃結也舟泉

月巻たなの花のの花の花芭蕉

あひる乃花の花の花の花

檀乃花の花の花の花同

杜宇二十句 林下

花のの花の花の花の花

花のの花の花の花の花

花のの花の花の花の花季吟

月よの青葉の影をわたりて 素堂

つとて 釣雪

蠟燭のひらひらと 越人

わひー子乃に 松下

跡也 重五

ほと 柳風

あまののまよて 冬井の

月よの青葉の影をわたりて

素堂

かこ 嵐弾

晴ち 落梧

故 一髪

三 同

浪よ

か 風泉

嶽 杏雨

あ 傘下


~~~~~カカ~~~~~

同

~~~~~あひま~~~~~

鈍可

~~~~~あひま~~~~~

月泉

~~~~~あひま~~~~~

~~~~~あひま~~~~~

大津  
智月

~~~~~あひま~~~~~

李桃

~~~~~あひま~~~~~

市凶

月三十句

~~~~~あひま~~~~~

十二歳
梅舌

~~~~~あひま~~~~~

湍水

~~~~~あひま~~~~~

一雪

~~~~~あひま~~~~~

越人

~~~~~あひま~~~~~

昌碧

~~~~~あひま~~~~~

津島  
市柳

~~~~~あひま~~~~~

一髪友

あこまておんえとてはまの月影野中
長虹

峠を夜抱く月見え那
任他

一ツ空やいふもつらふらふのつぎ
亀洞

出月まゝあつたはたなをせり
越人

あつたやうに十二もさるつら
文鱗

出月やうはつたあつたはつた舟
昌碧

あつたつやうにあつたあつたあつた
傘下

あつた也鼓乃屋也大乃了急
二水

見ふものも多えて人乃月見か
野水

出月乃乃乃乃乃

あつたも月をみるもなつた鏡
荷今

あつたの月もあつたあつたあつた
同

あつた月やあつたあつたあつた
去來

あつたあつたあつたあつたあつた
胡及

あつたあつたあつたあつたあつた
釣雪

あつたあつたあつたあつたあつた
十髪

十三夜

新婦のあはれをいふ夜は月あかり

松風

朝日

暮いづよ月乃り氣もほし酒乃泉

荷今

二月

えりふもたしな月夕の夕の風

全

三月

何より花見とくまふ似す三月の月

芭蕉

四月

夕月あんとんぐり志をいふ

卜枝

五月

いほよむいそぬ舞いもや春の月

一泉

伊豫

六月

銀川見習ふは月も我ら

鸛聲

母崎

七月

花見よむは月も我ら

一髪

岐阜

雪二十句

大津

雪の如や船路のく歌乃と 其角

ゆきゆのむちちちむらぬ一取 芭蕉

竹乃雪道て雪をなく 荻原 塵丈

かきあも雪もあも山 京 加生

車道雪をなく乃あ 加賀 小春

もつ雪もあも顔をし 越人

はつ雪に戸めぬも乃菴の風 是幸

との雪のぬも雪の二川 松芳

く雪のぬも雪の二水 二水

雪像も雪の雪の那 梶仙

雪乃雪たも雪の枝の風 除風

ゆき乃はや川路も雪の風 路馬汀

初雪やおれに雪の雪の風 傘下

雪の江の大舟も雪の小舟の風 昔川

雪乃終から鮭とくるあまほし
 雪が言はさやうや雁鳥が色
 ちりりや淡雪がはる強飯
 まつ雪や先も履にて隣を
 はる雪のふあまの取
 舟かけくくくゆれはる海の雪
 芳川
 野水
 路通
 荷今
 桂夕
 冬文

曠野集卷之二

歳旦

二月のあまののききあ花のま
 多ゆ人のまからまかりしは乃春
 つらあや九千年あははる人縄
 松のまると伊集の家買人も催
 うまの吾連歌あまのすか
 月やまがまのまのまの松
 芭蕉
 古梵
 風鈴軒
 其角
 文鱗
 去來

えねほまむこや新玉お年の海 長虹

とねの起て縄ゆしなぐ柳か 嵐弾

さや那也ふらみ面いつあゝあ 同

夢さ葉や舟の通おうんあぐさ 湍水

佛さるし神を坐しとれとねの 京 とれ

のゝ宮せやの目さつらあゝん 朴什

うさつとにとたうやひもすたも物 冬文

正月の魚乃うらや炭きりら 傘下

くは結ま寂しかゝと座用う那 冬松

あいのゝ松あま川あねあらや 柳風

大服も去年のまゝ結おや 防川

雪も結なるまの舞や中ねと 大山 昌勝

傘に菌乃采かろりえ方と那 夕道

袖すまゝ松の葉も舞ると那のま 梅舌

あゝゝゝんむも那也うらゝみ 野水

眼もさまみおやたゝふりゝら 同

さつまをみちをてこたえなり賢勇、越人

和まや濱もみ橋乃とみと彼 同

志の也志は歩階よよのま厚し 荷今

島歳乃ちんや隣よみまを 同

己のやーやむし乃まおたぬの 同

我のま月をいよるまの毛水 僧 般齊

家等式う存よも母の如くぬのま 貞室

たのめ 初巻 ぶらりたのめ 初巻

まの葉つむ跡も木は割細し 越人

精出しと摘よもくぬの葉 野水

七草をましく花もてては子も 津島 俊似

女おしくお務るのあつる葉も 加賀 小春

側傳了被乃たぬ儀は葉も 藤羅

吾うくもあしとをぬる葉も 岐阜 素秋

石物くつあつる梅おしきも 玄宗

梅乃花 鷗步

越人

落梧

一髮

冬松

蕉笠

綱代民部の息とて

芭蕉

長良 若風

去來

伊賀 一桐

洋島 一笑

同 市柳

同 夢々

梅舌

野水

同

まの雨舟やまを呼ここと

氣彈

白尾鷹

まやゆさ乃鹿つまき心白尾小

野水

蛛乃井又まき白かきま下り肌

奇生

ま切りつら草えこ法明金也

^{土歳} 龜助

すこ〜と親子摘きはくし

舟泉

すあ〜と橋也つますや土の年

其角

すこ〜とあまの子のまたり土年

蕉望

土橋やま〜と〜と〜と

塩車

川舟やま〜の〜つむ土年

冬文

は〜し〜頭巾にま〜と

春江

サ蘭卒乃至人池り

移〜と〜と〜と

〜と〜と〜と

池く移り〜 倭名書習ふ柳陰

素堂

風の吹方後 後々々々々

野水

何事も那 ともひり柳

越人

さー柳 昔々々々々

一突

尺さうらうや 柳

小春

すく柳 柳さ風よとて

一突

いささか 柳

昌碧

さう柳も 柳

杏雨

さう柳も 柳

此橋

柳さう柳さう 牛のさうさう

杏雨

吹風さう柳さう

松芳

うさ柳の地 柳

授遊

いささか 野 柳

荷守

蝙蝠さう柳さう

全

昔柳さう柳さう

素秋

引いささか 後へさう柳

鷗步

菊乃さうさう柳さう

生林

仲春

麦の穂に若菜の芽を飢ふる嵐也 不悔

若菜の芽を也 枚若菜の土を若菜のつゝ 長虹

たのふ若菜の土を若菜のつゝ 日影を 傘下

菜若菜の土を若菜のつゝ 日影を 清洞

うさくさつてんまで畑つ若菜の 去來

一カ歳を仕舞ふうさくさつてんまで畑つ 昌碧

うさくさつてんまで畑つ若菜のつゝ 越人

唐の庭又一カ歳を仕舞ふうさくさつてんまで畑つ 笑州

うさくさつてんまで畑つ若菜のつゝ 除風

うさくさつてんまで畑つ若菜のつゝ 一掃

うさくさつてんまで畑つ若菜のつゝ 冬松

うさくさつてんまで畑つ若菜のつゝ 一髪

うさくさつてんまで畑つ若菜のつゝ 野水

うさくさつてんまで畑つ若菜のつゝ 除風

うさくさつてんまで畑つ若菜のつゝ 一雪

りくくも備繩解くやる難きや 益車

もまてつてまのりあへ居難う那 凶崎 宗鑑

あささつてつとあひま蛇かたう肌 落梧

あさつまをむくしけうよま陸 越人

いすもと骨ねる者のかまらゆ 去來

花入とまけけあゆく蠶の肌 落梧

不圖と花て後ふ花をも居桂木 洋嶋 松下

ゆふやまの角廻又ゆま橋の那 一井

まら蟻を曳乃えお尻多ひ沙 柳風

桜桐の枝おにやあつてさる胡蝶 沙 梅餅

かやうしお中をまおぬはさつてふ肌 吹玉

かゆせえやもおらいつてさる胡蝶 大命 百歳

東歌 善草 西歌

何れも氣をわつてあつてさる草 忠知

ぬふしつと馬よらひあつてさる草 荷今

わしうくの土をあゆみさる草 野水

鳥をたつと日は乃とす 洞の草を 舟泉

草刈て 萱選おす 三里一那 鷗歩

り 蝶れと 霞と 残とぬ あとみか 燭遊

麦畑乃人え 休さるの 塙う那 杜園

をけ山や 勝の月おす 所 ^大 戎之

ほろくとも 山吹ちる け乃言 芭蕉

松明と ち乃吹う けし 黄のい 海 野水

山吹と ち乃吹う けし 黄のい 海 ト枝

しんくちや 山吹の ぬく 中へう 那 ^{岐阜} 襟雪

いんばおと ち乃吹う けし 黄のい 海 ^同 蓬雨

あそふと ち乃吹う けし 黄のい 海 去來

ちの 鳥の ち乃吹う けし 黄のい 海 俊似

いんばおと ち乃吹う けし 黄のい 海 長之

焚乃 巢は 覗りす ち乃吹う けし 黄のい 海 長虹

黄昏と ち乃吹う けし 黄のい 海 燕哉 崩弾

友減て ち乃吹う けし 黄のい 海 且葉

角為^りてやま^りくともえ^りる小^の藤^が 蕉^堂

あ^らる^る藤^のよ^うな^い浦^のの^りて^が 越^人

た^やも^子も^同し^し 鈴^の也^の枕^のの^所 傘^下

人^さあ^らむ^舟と^降との^のの^りて^り 那^{三編} 友^室

山^まゆ^りて^もあ^らむ^躑躑^のの^所 荷^今

朧^夜也^あく^てま^りて^る藤^のの^心 兼^正

篝^火又^ある^のの^りて^る舟^のの^心 龜^洞

永^さ日^也 鐘^のの^心 舟^のの^心 枝^ト

永^さ日^也 油^のの^心 舟^のの^心 野^水

り^春の^心 舟^のの^心 同

曠野集卷之三

初復

こぼるかへや白きも物も終つて

路通

更衣襟もたれしすやたしきよ

傘下

ころもへ刀もさしやへるる

^釋 扇弾

肖柏老人乃もちたまひありし心せりよ
まをさるのまをむけり又文鱗くく成る
とて宇の終越入り世をこもる古歌
あつらふ終の比文鱗よ中つるる

あまは獲まをあししむらむく

荷今

山徑

かろしき木乃さかき
 いちよき木乃さかき
 傍み木乃さかき
 切ふふらつらつ
 ちりちり
 ちりちり
 ちりちり
 ちりちり
 ちりちり
 ちりちり

芭蕉
 一井
 越人
 不交
 同 藤蘿
 龜洞
 竹洞

けあひしき木乃さかき
 さげらや下らさの櫻
 上ヶ土よつら
 枯色
 麦か
 ちりちり
 ちりちり
 ちりちり
 ちりちり
 ちりちり

鈍可
 夢々
 玄察
 生林
 作者 不知
 鈍可
 山嵐
 落梧

りー教てあうく実ほえさるり

岐阜

李批

大粒お雨くこゆえー

東巡

あきしひく見お拾ひぬ

吉次

汝川の居て

菴のあもふーくならぬ

嵐雪

きりーさ乃こまればえすか

野水

仲夏

お月みるるるあこもるる

櫻井

元捕

川多の馬をよまほは

一髪

忘るる障子まのあ

不交

周をくくく人呼

風笛

をゆく越えぬ

青江

あをみあま

合帖

くさかしの

卜枝

あ波て濡る

鷗步

そきて葎室

こころのせいのうへあめれおぼや 秋芳

故のむねも 梅乃一木とらふ雲はかり 小春

うやて火よあまなせはくあつとよと 杏雨

るのく終傘乃らるるよ 鳴蚊の 二水

蚊乃瘦て鎧みうへよさやりや 一笑

屋みおひやのばある延とけ警曇る 胡及

塔引了る深のむ志やむ異らとこの風 児竹

足伸へく娘百合竹おしすをぬか 此橘

竹乃子よ行燈とけてまをりや 長虹

笋乃時ととと 去來

岡杉城とさくくづむあも水鶴が 野水

五月雨よ柳よとら行、那 一龍 大律

この比と小粒小なりぬ五月雨 尚白

さう雨と傘よとらあつとを雨りや 龜洞

は阜よとく 真室

おゆらうとさしとととと 真室

ねたきし取よて

あまーろろろろろろろろろろ

猪舟

芭蕉

おるく

猪のぼろろ舞の舟や 荷兮

同

あまあは能くはん猪舟 越人

あふひの教かまぬ猪舟 淳児

曲は又舞のええぬろあわろな 梅棋

猪舟のええろろろろろろろろろろ 路通

松と猪舟をええろろ復野 卜夜

虹乃根をええろ野中乃標 鈍可

筒花乃泥をええろ野乃雨 同

猪子や猪舟をええろろろろろろ 越人

冷しや灯のええ復乃あこ 藤羅

復猪舟やええろろろろろろろろ 且其

蒼乃あこ

十ひんてんこちん一復た崖傍 其角
 夕うおや秋さの秋くみ瓢の肌 芭蕉
 ゆふのはの志ほむそ人乃志くあこ 野水
 夕息き改乃留候よのくはく 借雪
 山返来て夕うおや秋のもののか 市柳
 名も色ちほゆよほす候くまへ 長虹

暮復

楠毛物くやうく蟬 昌碧
 夕うおや秋さの秋くみ瓢の肌

雲北半 腦うけはたさむなり 野水
 夕うおや秋さの秋くみ瓢の肌 傘下
 あくくた夜もやぬ本陰か 玄旨
 流くくさく白雨あつく入は秋 去來
 夕うおや秋さの秋くみ瓢の肌 荷兮
 夕うおや秋さの秋くみ瓢の肌 同
 ねもさすの人よ遠かり夕涼を 鳴海
 亮石乃石露や草花下涼み 津山
 俊似

涼しきや樓乃下ゆくゝの音

全

柁燈のささやうゆりし涼舟

ト枝

すしきや舟のささやうゆりし涼舟

未學

吹ちてゆくみれりゆりし涼舟

秀正

蓮みじかやちやちやちやちや

晨胤

笠もよみてみれりゆりし涼舟

古梵

河骨くゝの力舟りちの舟り

美水

きりしとちりし松の古枝あり

長虹

すしきや舟のささやうゆりし涼舟

俊似

連あゆみ待ちてみれりゆりし涼舟

文瀾

引きて馬にのちゆりし涼舟

濂月

かきしきや舟のささやうゆりし涼舟

尚白

虫ほや舟のささやうゆりし涼舟

一髪

麻のささやうゆりし涼舟

ト枝

約撞受後く付し涼舟

李晨

越人

越人

綿乃心き海く菊く何るの肌

素堂

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

曠野集卷之四

初秋

ちろろちや麻川あとの秋は凡

越人

梧乃我やせうふらん輝の風

圓解

松嶋雲右のまゝ

一葉ふ散る青くしほはつちをりし

仙化

うらひらのちもや秋の夕ぐさ

方生

男くさ花羽織夜星みち向小

杏雨

秋風と西風と... 芭蕉
草や垣おれ... 文鱗
あさう... 荷今

子たな...
かた...
同

秋風... 去來
涼し... 昌長
畦道... 鷺汀
あし... 一髪
あし... 素秋
あし... 芭蕉
あし... 其角
あし... 舟泉

秋風... 去來
涼し... 昌長
畦道... 鷺汀
あし... 一髪
あし... 素秋
あし... 芭蕉
あし... 其角
あし... 舟泉

ひよろしと物もあつたや如る花 芭蕉

棚作と免さひつを蒲萄汁 作者 不知

草あつたかゝぬらひもあつた 伏見 任口

とていふやうに物もあつた 荷今

仍人やあつたはつた人しては 胡及

宗祇法師のいふやうに

あつたはつたはつたはつたはつた 素堂

あつたはつたはつたはつたはつた 俊似

仲秋

かたふふと鳥乃とあつたはつたはつた 芭蕉

つとつととあつたはつたはつたはつた 加賀 小春

谷川やあつたはつたはつたはつた 津嶋 益音

石切乃あつたはつたはつたはつた 傘下

芥子ねやあつたはつたはつたはつた 卜枝

麻のあつたはつたはつたはつた 一袋

田也あつたはつたはつたはつたはつた 仔塚 一泉

山崎り麻呂の作ましく笑たり 重五

紅葉あふとたうき 一はる馬の間 其角

去し地人のあひひてふふあふ 東順

救もら中 へふあふさく立枝 林芥

あふあふあふあふあふあふあふあふ 越木

うのあふあふあふあふあふあふあふ 宗和

うのあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふ 如賀 水枝

素書いさうりて

あふあふあふあふあふあふあふあふ 越人

一本乃芦み横渡 防川

松の木うあふあふあふあふあふあふ 舟泉

あふあふあふあふあふあふあふあふ 胡及

あふあふあふあふあふあふあふあふ 曉龍

あふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふ 其角

よーのよー

いそがしき野布おろしのあはれ星 加賀 芭蕉

いそがしき野布おろしのあはれ星 加賀 一笑

暮秋

あまのめく栴一ら菊乃白ちん 巴丈

あまのめく栴一ら菊乃白ちん 昌碧

あまのめく栴一ら菊乃白ちん 越人

しきや花をぬきおみよのうら 曉鏡

荷さうり室へ移ぬるはあまのめくちん

あまのめく栴一ら菊乃白ちん 其角

あまのめく栴一ら菊乃白ちん 同

あまのめく栴一ら菊乃白ちん 永

あまのめく栴一ら菊乃白ちん 伊豫 子園

あまのめく栴一ら菊乃白ちん 濃列 若夕

人さほしむる

と物さね我しむる 市 落格

約の下の降の 王 吹玉

はし 傘下 傘下

こか 荷今 荷今

つお 一髪 一髪

この 同 同

批把乃花人の 同 同

桑乃 李晨 李晨

利木 野水 野水

暮虫乃 昌碧 昌碧

麦 全 全

乃 一井 一井

強 落格 落格

石白乃 胡及 胡及

青 文鱗 文鱗

つらつらしき物観するも葉の如く 卜枝

多し枯く風乃体より力を野に 洞雪

蓮池のうらめしき人ゆき枯る 一髪

層の底より石きけまつくかゆれ 松芳

このかゝり吹きぬけり層帯 杏雨

響る物れぬくしきぬき 蕉笠

寒月

寝るもあゝく度く月夜面白 野水

あさ漬乃大根あけし月あや 俊似

仲冬

ねろしきく鐘きつるあはれ 勝吉

志らぬやつこつたさるるあはれ 皇治

横くもる馬糞にやゝあはれ 林芥

柴みよしきほくくあはれ 杏雨

らあゝあはれをねろしきあはれ 宗之

高杉新八郎乃家名をこれり 杜園

舟棚乃葉花をさるる水の部 勝吉

深き池水花をさるる 歌きり葉 俊似

つぎふとてすの葉をさるる 除凡

打木をさるる何れ 花水柱 夜舟

兼題雪舟

峠をさるる雪舟をさるる 嵐弾

ぬいへんとて雪舟をさるる 荷今

舟をさるる 長虹

馬をさるる 一井

雪舟引也休むと 龜洞

つぎの 言咄

青海也羽白黒鴨赤 忠知

舟をさるる 龜洞

朝鮮をさるる 村俊

井を掃るる 六月夜く
裸うたなり

汗かして谷々突くむ氷室の 冬松
 海鼠腸乃壘埋きくこと氷室の 利重
 炭竈乃穴物さくやうるりあり 亀洞
 藤屋をよほくちをちかたむさか 塩車
 火のぼして炭火くちをちかたむさか 一袋加賀
 いらりー尻起やほくちをちかたむさか 亀洞
 冬をさくやうるりありさくちかたむさか 芭蕉

歳暮

餅つおやゆもちおすほくちの 季下
 吾書つくえ免物ものさり 尚白
 わらう花の後をすくちかたむさか 野水
 もろもろく櫓つくちかたむさか 亀洞
 煤もろひ櫓つくちかたむさか 一髪友

本曾の月こくちかたむさか
 として柿の實もくちかたむさか
 今年の暮もくちかたむさか
 ちかたむさか

とーのく純梓が實のくもか 荷今

川松をうもて路一存ひ 内習

田作く丸遊子のまゝか 龜洞

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

